

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

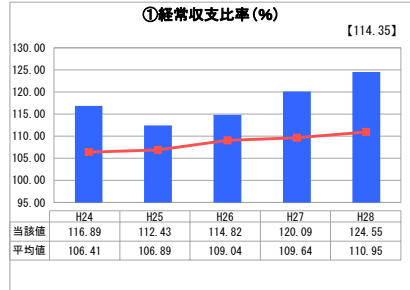
岐阜県 瑞穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	86.54	85.42	1,836	

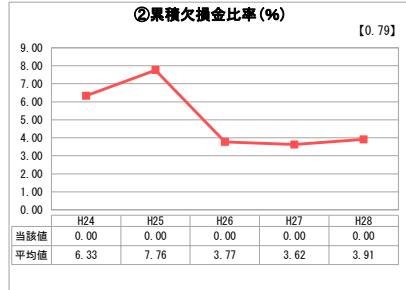
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
53,981	28.19	1,914.90
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
46,050	26.85	1,715.08

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成28年度全国平均

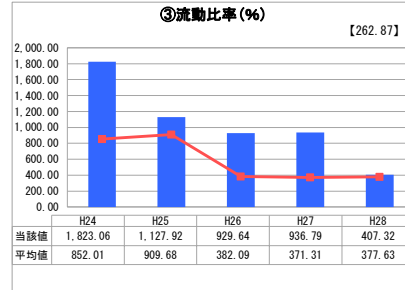
## 1. 経営の健全性・効率性



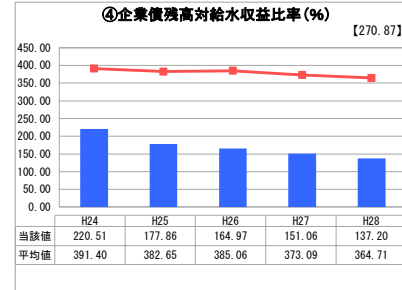
「経常損益」



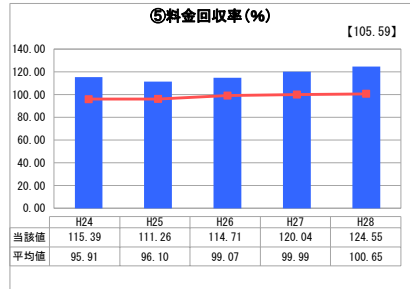
「累積欠損」



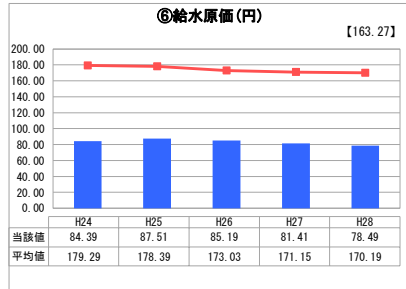
「支払能力」



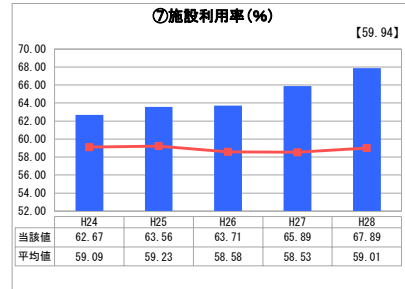
「債務残高」



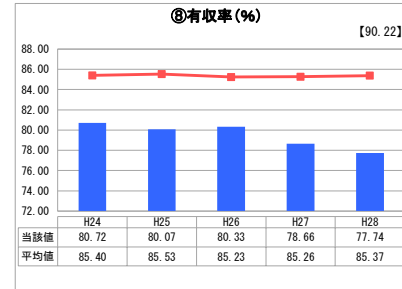
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

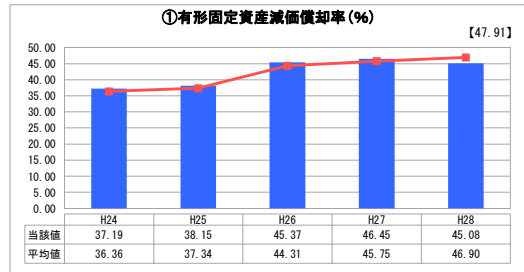


「施設の効率性」

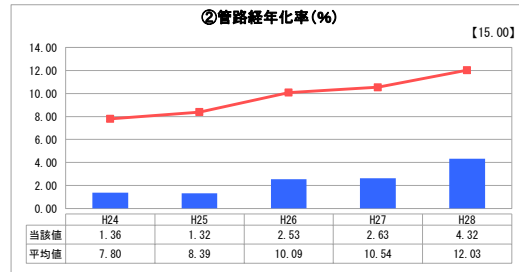


「供給した配水量の効率性」

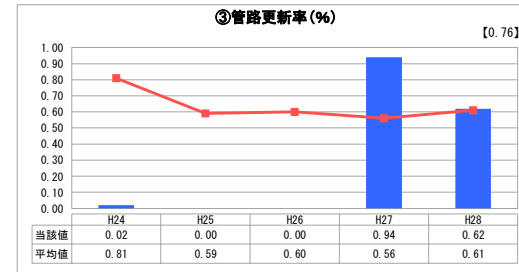
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上であり収支は黒字になっています。  
 「②累積欠損金比率」は0%であり損失のない健全経営が維持されています。  
 「③流動比率」は、全国平均を上回っており良好な状態ですが、建設改良費等に充てる企業債や未払金などの流動負債が増加すると流動比率は低下します。  
 「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体に比べ低い水準にありますが、水道施設の更新などによる企業債の増加が見込まれ、給水収益と企業債残高のバランスに留意する必要があります。  
 「⑤料金回収率」は、全国平均を上回っています。引き続き安定した給水事業を維持していくための更なる財源確保が求められます。  
 「⑥給水原価」は、井戸水による自己水であるため低く抑えられており、「⑦料金回収率」は、全国平均を上回っています。引き続き安定した給水事業を維持していくための更なる財源確保が求められます。  
 「⑦施設利用率」は、類似団体に比べ高い水準にあります。給水人口の増加に伴う1日平均配水量が増える傾向にあり、施設の稼働率は良好な状態と言えます。  
 「⑧有収率」は、類似団体に比べ低くなっています。漏水調査、老朽管の更新、修理などを継続し有収率の向上に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、全国、類似団体平均値とほぼ同水準となっています。  
 「②管路経年化率」は、類似団体と比べて低い状態にあるものの、これは耐用年数(40年)に達している管路がまだ少ないため、今後耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加するため、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要があります。  
 「③管路更新率」は、0.62%と類似団体平均値とほぼ同水準となっていますが、「②管路経年化率」が増加しており、管路の老朽化が進んでいくため、計画的な更新を実施する必要があります。

## 全体総括

瑞穂市の水道事業は、経営の健全性及び効率性では良好な状態にありますが、今後見込まれる人口の減少、節水意識の向上などにより給水収益が減少することが想定される中で、老朽施設の更新需要に対応していくには、水道料金や施設規模の見直しなどの取り組みを更に進める必要があります。経営戦略や水道施設更新計画を活用し、長期的な視点に基づく経営の健全化に努めます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。